

【公益財団法人中島記念国際交流財団助成事業】

留学生地域交流シンポジウム

令和2年2月21日（金）

13時00分～17時30分

東京国際交流館 プラザ平成3階 国際交流会議場

プログラム

- 13:00-13:10 **開会挨拶**
米川 英樹 / 独立行政法人日本学生支援機構 理事
- 13:10-13:20 **事業説明**
- 13:20-13:40 **事例紹介①**
“成城大学で受け入れる交換留学生と地域住民との国際交流の実際について”
金田 陽治 / 成城大学 国際センター 課長
- 13:40-14:00 **事例紹介②**
“地域での国際交流と日本人学生のエンパワーメント”
袴田 麻里 / 静岡大学 国際連携推進機構 国際教育推進部門 准教授
- 14:00-14:20 **事例紹介③**
“国際交流館（東京、兵庫）を拠点とする留学生地域交流事業”
宮崎 浩志 / 特定非営利活動法人国際社会貢献センター 常務理事・事務局長
- 14:20-14:40 **事例紹介④**
“留学生による新潟県企業視察ツアーに関する報告”
蔡 聖錫 / 公益財団法人環日本海経済研究所 経済交流部 経済交流推進員
- 14:40-15:00 休憩時間
- 15:00-15:20 **事例紹介⑤**
“茨城県留学生親善大使の任命と交流推進”
鹿志村 浩行 / 公益財団法人茨城県国際交流協会 事務局長
- 15:20-15:40 **事例紹介⑥**
“国際大学の「多文化ふれあいコミュニティ事業」について”
信田 グレチェン / 国際大学 学生センター事務室長
- 15:45-16:30 **パネルディスカッション**
“留学生地域交流に係る課題と展望”
ファシリテーター 中本 進一 / 埼玉大学 人文社会科学研究所 教授
- 16:30-16:40 **2020年度の募集について**
- 16:45-17:30 **交流会** （会場：メインホワイエ）

公益財団法人中島記念国際交流財団助成による 留学生地域交流事業

この事業は、公益財団法人中島記念国際交流財団から委託された資金を基に、地域における外国人留学生と日本人等住民との相互理解促進に係る事業を助成することにより、日本の諸地域における外国人留学生の適切な受入れ環境を整備し、留学生交流を推進することを目的としています。

申請団体

- (1) 学校教育法第一条に規定する大学、高等専門学校
- (2) 地方公共団体
- (3) 公益社団法人、公益財団法人、一般社団法人、一般財団法人
- (4) 認定（特例認定）特定非営利活動法人、特定非営利活動法人
- (5) その他の非営利団体（任意団体については規程、会則等に基づき、意思の決定及び会計処理のための組織があり、事務所を設けている団体に限る。）

助成対象事業

(1) 国際理解教育の推進のための外国人留学生を活用した事業

初等中等教育機関・高等教育機関・地域住民等に対する異文化理解教室、国際理解講座、日本人学生等のグローバル人材育成支援等、外国人留学生を活用した国際理解教育を推進する事業

(2) 外国人留学生の生活支援体制整備のための事業

住居サポート、生活相談・カウンセリング、日本語教育、日本文化教室、就職支援活動等、外国人留学生及びその家族に対する生活支援事業

(3) 外国人留学生と地域住民との交流推進のための事業

地域における文化体験や交流活動等、外国人留学生と地域住民との交流を推進する事業

(4) 外国人留学生等の各種ネットワーク整備のための事業

日本留学に係る情報の提供、在日外国人留学生・帰国外国人留学生の人的ネットワーク構築のための交流事業やフォローアップ等、留学生支援に係るネットワークの整備事業

現在、2020年度の募集を行っています。

助成事業実施機関：2020年5月1日（金）から2021年1月31日（日）

募集要項及び申請書式は下記のページに掲載しています。

<https://www.jasso.go.jp/ryugaku/related/kouruyujigyou/boshu.htm>

募集要項等ダウンロードページ



受付締切日：3月6日（金曜日）必着

選考結果通知時期：4月中旬（予定）

成城大学

成城大学で受け入れる交換留学生と地域住民との国際交流の実際について

成城大学は東京都世田谷区にキャンパスを置く 4 学部 11 学科から構成される人文社会科学系の総合大学です。大学の設置母体である成城学園が 2017 年に 100 周年を迎えるに併せて国際教育の強化を改革の柱の一つと定め、留学、国際教養教育や国際交流を統括する国際センターが設置されました。この国際センターでは、本学で受け入れている欧米を中心とした交換留学生と地域住民とが交流することができる場の提供を毎年企画しています。

(実施報告)

・2016 年度 「英語落語で国際交流 in 世田谷」

英語落語で著名な落語家による実演のあと留学生による小話を地域住民に対して披露しました

・2018 年度 「食を通じて学ぼう、世界のダイバーシティ」

ベジタリアン、ビーガン、ハラルなど日本人にはあまり馴染みのない食文化を地域住民に紹介し、留学生達との試食会を開催しました

・2019 年度 「東京 2020 オリンピック・パラリンピックで国際交流 ～使える英語はこう学ぶ!～」

外国人のタレントによる英語を使ったコミュニケーションに関する講義を聞いたあと、地域住民が留学生と英会話の練習を行いました

静岡県留学生等交流推進協議会

地域での国際交流と日本人学生のエンパワーメント

静岡県留学生等交流推進協議会は静岡県内における留学生等の受入れの促進や地域住民との交流活動の推進を図るための具体的方策等を協議することを目的として、県内の高等教育機関、地方公共団体、経済団体及び国際交流関係団体等 53 団体・機関の長又は代表者等で組織されています。

この協議会では、静岡県内の留学生支援や地域住民との交流を図る活動として、留学生と日本人学生が、静岡県という同じ地域で学ぶ仲間として知り合い、大学、専門、出身、年齢を問わず、あるテーマについてそれぞれの視点から語り合い交流することを目的に、県内大学に在籍する大学生（留学生、日本人学生）が実行委員会を構成しています。留学生と日本人学生は同世代の者として、身近な話題から歴史認識などの国家間の問題まで、様々な事柄に興味を持っているはずですが、お互いの知的レベルに合致する交流によって、次世代の国際社会において活躍する者同士が強く結びつき、将来それぞれの国や分野において相互に協力することが可能となるでしょう。

(実施報告)

5 月に留学生 7 名と日本人学生 10 名が実行委員会を結成して国際交流討論会「お隣さんは外国人・世界で、故郷で - (話っ、輪っ、和っ! 2019)」を企画・準備・運営を行い、静岡大学国際連携推進機構教員とともに 2020 年 1 月まで活動しました。12 月 21 日・22 日に焼津青少年の家において、10 名の社会人とともに、県内 6 大学、2 日本語学校よりスリランカ、ネパール、インド、インドネシア、タイ、中国、バングラデシュ、ベトナム、ミャンマー、韓国、台湾、アメリカ、カナダの 13 カ国からの留学生 55 名、日本人学生 41 名が集い、1 泊 2 日でトークやゲームを楽しんだ。ふじのくに留学生就職促進プログラム（公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム）と連携し、広報などを効果的に行うことができました。

特定非営利活動法人 国際社会貢献センター

国際交流館（東京、兵庫）を拠点とする留学生地域交流事業

・2000年4月、商社などを会員とする一般社団法人日本貿易会が内部組織として国際社会貢献センターを設立。国際ビジネス経験・ノウハウを持つ商社等の企業OBやOGが人材登録し、国内の様々な分野でのニーズに人材推薦・紹介する活動を行っています。

・2001年5月－特定非営利活動法人(NPO)化、2002年12月－関西デスク設置

・組織 総会－理事会－事務局（常務理事兼事務局長・事務局員・コーディネーター）

会員（正会員－法人16社・1団体・個人13名、賛助会員－法人3社・個人264名、活動会員－約2,950名）－2020年1月末現在－

・活動内容は、日本語広場（東京・週18クラス、兵庫・週12クラス）、日本文化教室（週末に茶道、華道、書道、囲碁、将棋、空手）、バザー（春・秋年2回実施）、夏の国際交流フェスティバルに茶道・華道・書道の体験教室、留学生家族への生活支援（健康管理、育児相談、病気治療通訳、子供の入園・入学手続等）

・2019年度活動規模 約9,000万円

（実施報告）

【兵庫】

・日本語広場（週12クラス）初級I、II、中級、上級

－ 2018年度受講者延べ数 2,126名 2019年度（4月－1月）1,348名

・日本文化教室（週末 華道、書道、空手 月1回）

－ 2018年度受講者延べ数 121名 2019年度（4月－1月）122名

・バザーの定期開催（年2回 春期・秋期）

・その他イベントの協力、国際交流フェスティバル等

公益財団法人 環日本海経済研究所

留学生による新潟県企業視察ツアーに関する報告

ERINAは、1993年に通商産業省（当時）の認可により財団法人として新潟市に設立されました（2010年9月、内閣総理大臣の認定により公益財団法人へ移行）。

北東アジア経済圏の形成・発展に寄与し、国際社会・地域社会に貢献することを目的に、北東アジア地域経済の調査・研究及び、同地域の経済交流推進のために活動している Think & Do Tank です。

（実施報告）

ERINAは2019年12月に3回にわたり、新潟県の下越、中越、上越地方において、外国人留学生による県内企業の視察を実施しました。対象者は新潟県内の大学院・大学・専門学校に在学中の外国人留学生で、これらの留学生による県内企業の視察を通じて、日本企業に対する認識を深めることで、日本とりわけ新潟県での就職に繋がることを目的としました。実施の概要は以下の通りです。

①下越地域：2019年12月6日(金)に、留学生16人が一正蒲鉾㈱と佐藤食品工業㈱を訪問。

②中越地域：2019年12月10日(火)に、留学生8人がマコー㈱と日東工業㈱を訪問。

③上越地域：2019年12月18日(水)に、留学生18人がシングル工業㈱と㈱サイカワを訪問。

公益財団法人 茨城県国際交流協会

茨城県留学生親善大使の任命と交流推進

公益財団法人茨城県国際交流協会は、茨城県のグローバル化を推進する国際交流実践組織として、行政と県民が一体となって設立された公益財団法人です。県民の国際交流・協力活動及び国際理解の促進とともに、多文化共生地域づくりを推進することにより、国際感覚豊かな人材の育成と多様性のある活力にあふれた地域社会の創造に寄与することを目的としています。

(実施報告)

【国際理解教育講師等派遣事業（ワールドキャラバン）】

県内の留学生を「茨城県留学生親善大使」として任命し、県内の小中高等学校、特別支援学校及び生涯学習関連団体の実施する授業や国際理解講座の講師として派遣しました。留学生が児童・生徒らと直接触れ合い交流することができました。

【クエスト茨城留学生研修】

同親善大使の留学生を対象に、地域に根差した県内企業や、文化施設等を訪問する研修バスツアーを実施しました。年に2回行われ、第1回は株式会社サザコーヒーとアクアワールド茨城県大洗水族館、第2回はつくばエキスポセンターと株式会社カスミに訪問しました。留学生たちは実際に訪れて見たり聞いたりすることで、茨城県の良さを実感することができました。

国際大学

国際大学の「多文化ふれあいコミュニティ事業」について

国際大学は、広くわが国の経済界、教育界並びに地域社会の強い支援を背景に、昭和 57(1982)年、国際社会で活躍できる高度な専門的知識を持った職業人の育成を企図する大学院大学として設立されました。授業はすべて英語で行われ、学生の8割以上が外国人というグローバルな環境と、新潟の美しい田園が周囲に広がるキャンパスの寮で、学生たちは勉強も生活も共にしています。

(実施報告)

南魚沼市との共催で「多文化ふれあいコミュニティ事業」として「インターナショナル・フェスティバル 2019」を開催しました。インターナショナル・フェスティバルは毎年学生主導で開催している国際大学の一大イベントで、「国際大学の学園祭」とも言われています。今年も例年通り大勢の来場者があり、地域の住民の方など約1,500名の来場者が訪れました。

野外特設会場では国や地域ごとに16のブースが並び、学生たちは自ら作った料理の販売を通して、来場者との交流を楽しみました。体育館のステージでは学生たちが民族衣装を身にまとい、18のチームがダンスや歌等で母国の文化を披露しました。また、地域住民による太鼓などの伝統芸能などのパフォーマンスも行われ、外国人学生が日本の文化を知る機会もありました。

また、特別イベントとして「握飯世界一決定戦 Onigiri World Championship」が南魚沼市と共催で同時開催され、注目を集めました。南魚沼市コシヒカリのPRを目的とし、留学生6チームがアイディアを出し合い、独自のおにぎりを生み出しました。今年の世界一のおにぎりはラオスチームの「アオカイおにぎり」でした！

埼玉大学

1949年創立。現在は教養、経済、教育、理、工の5学部と、人文社会科学、教育学、理工学の大学院3研究科から成り、多様な学問が1つのキャンパスに集う All in One Campus の大学。

(実績報告)

埼玉大学は、中島記念国際交流財団助成事業に7年連続で採択され、本年度6回目の開催となった「埼玉学のすすめ」バスツアーは、埼玉県内在学在住の外国人留学生・日本人学生が埼玉県の歴史・文化を共に体験し、外国人留学生には埼玉県、さらには日本の魅力を海外に発信してもらうことを目的としています。また、日本人学生には異文化間教育の視点から「おもてなし」を考える事前研修を行い、当日のガイドツアーの通訳にとどまらず、学生同士の交流が活発になるようレクリエーションの企画を任せています。

- ・第1回 県内留学生のための実地見学型「埼玉学のすすめ」
(宮沢湖/埼玉伝統工芸会館/人形の東玉)
- ・第2回 体験型学習による地域の魅力・日本の財産発信事業
(小鹿野歌舞伎/秩父織塾・横山工房/宝登山神社/長瀨岩畳)
- ・第3回 日本の技術力! Old & New「ものづくり」体験さいたまプロジェクト
(鉄道博物館/松本醤油商店/ガラス工房 Blue moon)
- ・第4回 幼少時代の文化基盤を探る:文化比較体験バスツアー
(イワコー おもしろ消しゴム工場/埼玉スタジアム/丸草一福 本店)
- ・第5回 3つの「守り」をグローバルな視点で共修するバスツアー
(大宮盆栽美術館/埼玉県防災学習センター/埼玉県環境科学国際センター)
- ・第6回 埼玉県の文化ロジスティックス検証ツアー:ツーリズムと新旧技術革新
(・イースト/和紙の里ひがしちちぶ/長瀨)



中本 進一

埼玉大学 人文社会科学研究科 教授

1958年生まれ。神戸出身。

埼玉大学人文社会科学研究科・教授/国際本部・学生国際交流(受入れ・送り出し)を担当。

留学生相談・生活指導を行う。1995年の阪神淡路大震災でボランティア活動を経験したことが、現職着任への動機となっている。留学生交流事業の中でも、地域の国際理解や留学生の日本適応のサポートに力を入れている。

専門は「異文化間教育学」。異文化適応とアイデンティティをテーマに卒業後の留学生に関するフォローアップ調査を行っている。

埼玉県留学生交流推進協議会・会長(事務局・埼玉大学)

埼玉県多文化共生推進委員会・委員長、埼玉県グローバル賞審査委員長、埼玉県国際交流協会・理事。さいたま市国際化推進委員会・委員長、県立浦和高校 SGH 事業運営指導委員会・委員長等を歴任。

独立行政法人日本学生支援機構

留学生事業部 留学生事業計画課

電話:03-5520-6012 E-mail:nak@jasso.go.jp